

博物館だより



No.97

平成26年5月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都市みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666

特別公開

開館20周年記念事業①

生立八幡宮「僧形八幡神像」展

開館20周年記念事業①
県内初公開／会期 4月29日～5月18日

当館では、5月18日(日)まで、開館20周年記念事業の一環として、特別公開『生立八幡宮 僧形八幡神像』展を開催いたします。

今回の企画展は、生立八幡宮(みやこ町犀川生立)が所蔵する「木造僧形八幡神坐像」(福岡県指定文化財)を展示するもので、県内の博物館では初めての公開となります。八幡神は日本の神を代表する存在で、神仏習合という、世界的にもまれな宗教観を実現した神として知られています。この企画展を通して、故郷の歴史はもちろん、日本の精神文化の一面を学んでいただければと思います。ぜひ、ご来館ください。

■会期 5月18日(日)まで

■場所 当館展示室

■展示資料

福岡県指定文化財

「木造僧形八幡神坐像」

(生立八幡宮所蔵)

展示資料の詳細は、裏面掲載の「みやこの歴史発見伝」をご覧ください。

■観覧料(消費税込)

大人 200円

高校生以下 100円

博物館友の会

会員募集!

みやこ町歴史民俗博物館友の会は「故郷を楽しく学ぶ」をモットーに、講演会やバスハイク・歴史たんけんウォークなどさまざまなイベントや学習会を行っています。

関心のある方なら、どなたでもお気軽に参加いただけます。ぜひ、ご入会下さい。

♪入会の方法

博物館の窓口で会費を納めてください。

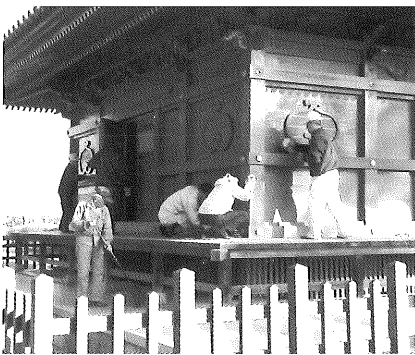
♪年会費

個人会員 3,000円

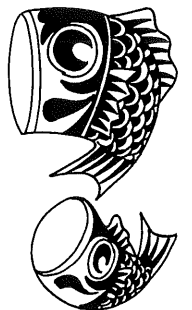
家族会員 1名2,000円

♪お問い合わせ先

みやこ町歴史民俗博物館内



▲【友の会活動】三重塔すすはらい(例年12月初旬)



友の会事務局
TEL 0930・33・4666

博物館友の会

定期総会のご案内

平成26年度の博物館友の会定期総会を次のとおり開催いたします。

会員の皆さんは万障お繰り合わせのうえご出席ください。

■日時 5月18日(日)
午前10時00分～

■場所 当館 研修室

■議事 事業計画の審議等

■記念講演会

「小倉藩の自然災害」

当館学芸員 川本英紀

5月の歴史講座

【漢詩紀行講座】

5月3日(土) 9時30分～

【古文書講座】

5月10日(土) 10時00分～

【古典かな講座】

5月17日(土) 9時30分～

【金曜古文書講座】

5月23日(金) 10時00分～

【みやこ学講座】

5月24日(土) 10時00分～



▲事前レクチャー(行橋市中央公民館にて)

3月23日(日)、博物館友の会と博物館金曜古文書講座合同で、「歴史たんけんウォーク～在郷町・大橋ウォーク～」が実施されました。今回のウォークは、江戸時代に小倉藩屈指の経済力を誇った町「大橋」(現行橋市)の歴史を学ぶことを目的に実施したものです。公民館で当館学芸員のレクチャーを聴いた後、旧道を歩きながら往時の繁栄に思いをはせました。



▲現地での説明に聴き入る参加者(舟路川)

みやこの歴史発見伝74

福岡県指定文化財

木造僧形八幡神坐像

再録版

【所在地】みやこ町犀川生立7番地
【所有者】宗教法人 生立八幡宮
【規模・構造】像高41cm 榿材製、寄木造
胎内に応永元(一三九二)年の奉納銘がある

生立八幡宮について

この神像が収められている生立八幡宮は、「生立さま」の呼び名で犀川地区の人々に古くから親しまれています。特に犀川盆地内の殆どの集落を氏子ムラとして抱えることから、中世以来「西郷(犀川)総鎮守」と位置づけられ、現在に至っています。

神社の歴史は古く、遠く神代頃に神功皇后が対外遠征の帰路立ち寄り、この地で生後間もない皇子・菅田皇子(のちの応神天皇)で八幡神の化身が初めて立ち上がるという奇跡が起きたことから「生立」の名がついたという伝説も伝えられています。



▲鬱蒼とした木立に囲まれる生立八幡宮



▲凛々しい求道の青年僧姿の八幡神坐像像

ただ実際の歴史が確認できるのは平安時代からで、中世以降仲津郡(現在の行橋市とみやこ町の南部)の大社として領主の参拝が行われる格式高い神社とされてきました。

神さまなのに「袈裟」姿?
神像は、生立八幡宮のご神体として五〇〇年近く本殿の奥に鎮座

して五〇〇年近く本殿の奥に鎮座



▲胎内には銘文が刻まれています

していましたが、明治のはじめにその役割を終え、現在は傍らで休憩されているような状態です。その休憩中をお邪魔して恐縮ですが、特徴あるお姿を皆さんに理解いただくため少しだけお付き合いいただくこととしましょう。

さて、この像は神社の祭神である八幡神の姿を現していると考えられますが、特徴は何といってもその身なりにあります。一見して分かるように坊主頭に袈裟姿というおおよそ神さまらしからぬ姿をしておられますが、この姿は八幡神という神さまの経歴に由来しています。

八幡神はもともと豊前地方(とくに大分県宇佐市周辺)の土着神でしたが国運に関わる託宣(お告げ)を下すことで一躍有名になり、奈良時代以降護国の神として朝廷からも崇敬を寄せられるようになります。しかしその一方で護国のために滅ぼした隼人族の怨霊に悩まされるようになり、その供養と一層の護国の靈験を願うため「出家して仏門に入る」という、おおよそ神さまの世界でも驚きの離れ業をやつてのけた神さまなのです。

*神像の胎内に刻まれる銘文(原文)

豊前仲津郡木山郷生立八幡宮者(郡一社之宗廟也 治暦三年所奉遷坐於城原之大菩薩者養老七年国司男人安置之尊像也 然今茲無故損所之奈妖變襲来之表兆 誠可恐之至也 依之更遷官廳令處刻奉安之畢 応永中成曆林鐘用嘉祥日 大願主地頭 西郷郡都左衛門高頼 敬白

*右の銘文の意識

豊前国仲津郡木山郷に鎮座する生立八幡宮は郡中第一のおやしるである。治暦三(一〇六七)年に城原の地からお移した八幡大菩薩の尊像は、養老七(七三二)年に時の豊前国司・宇奴首男人が奉納したものである。

しかし今、さしたる理由もなく壊れるところがあつたので、不吉なことが起こる前触れのように思われ、誠にもって恐るべきことである。よつてこのことをその筋の役所へと届出たうえで、新たに刻みなおした神像を安置するものである。

応永元(一三九二)年六月の善き日 願い主 地頭 西郷高頼 敬つて 申し上げる

出家後の八幡神は「八幡大菩薩」の名で呼ばれて、ますますその靈験を高め、より多くの人々の尊崇

を集めて、中世には「神は八幡」と言慣わされるほど、人々の間に知られるようになります。

このように神さまなのに仏の教えにも従う神も仏もわけへだてなく尊ぶ異なる考え方を協調させる、というのは「神仏習合」と呼ばれて日本人ならではの感性とされていますが、その背景には八幡神という神さまの行動に共感する日本人の志向が反映されているということができません。

この神像はこうして広まった八幡信仰の貴重な産物といえ、この信仰のふるさとである豊前地方に残る数少ないゆかりの遺品です。

形に示される八幡神の性格

神像にはこのほかにもさりげない姿で、この神の特色が強調されています。まず形相が青年僧の形をとっていることで、若々しい力に満ちあふれた神であることを示します。また左手には経巻や数珠、右手は仏の特徴である手印(ポーズ)か錫杖とよばれる杖を持つ形をとっており、人々を救うために修行する神にして菩薩という姿が強調されています。

このように一見何気ない僧侶姿の木像のようにしか見えないように、豊前地方のみならず日本人の心を知る情報が数多く含まれているというのも、この神像の特色といえます。

(木村達美)